

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 15年 8月) ～コア CPI 上昇率は 2年 4ヵ月ぶりのマイ ナスも、物価上昇の裾野は広がる

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI 上昇率は 13年 4月以来のマイナスに

総務省が 9月 25日に公表した消費者物価指数によると、15年 8月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI)は前年比▲0.1%(7月:同 0.0%)となり、13年 4月以来 2年 4ヵ月ぶりのマイナスとなった。事前の市場予想(QUICK集計:▲0.1%、当社予想も▲0.1%)通りの結果であった。

一方、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合は前年比 0.8%(7月:同 0.6%)と上昇幅が拡大し、総合は前年比 0.2%(7月:同 0.2%)と上昇を維持した。

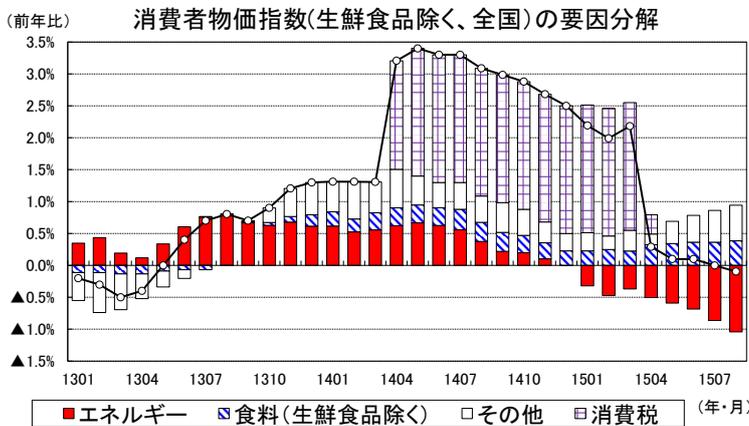
消費者物価指数の推移

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
14年 4月	3.4	3.2	2.3	2.9	2.7	2.0
5月	3.7	3.4	2.2	3.1	2.8	1.9
6月	3.6	3.3	2.3	3.0	2.8	2.0
7月	3.4	3.3	2.3	2.8	2.7	2.1
8月	3.3	3.1	2.3	2.8	2.7	2.1
9月	3.2	3.0	2.3	2.8	2.6	2.0
10月	2.9	2.9	2.2	2.5	2.6	2.1
11月	2.4	2.7	2.1	2.1	2.4	1.8
12月	2.4	2.5	2.1	2.2	2.3	1.8
15年 1月	2.4	2.2	2.1	2.3	2.2	1.7
2月	2.2	2.0	2.0	2.3	2.2	1.7
3月	2.3	2.2	2.1	2.3	2.2	1.7
4月	0.6	0.3	0.4	0.7	0.4	0.0
5月	0.5	0.1	0.4	0.5	0.2	0.1
6月	0.4	0.1	0.6	0.3	0.1	0.2
7月	0.2	0.0	0.6	0.1	▲0.1	0.3
8月	0.2	▲0.1	0.8	0.1	▲0.1	0.4
9月	-	-	-	▲0.1	▲0.2	0.6

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳をみると、電気代(7月:前年比▲3.8%→8月:同▲5.1%)、ガス代(7月:前年比▲4.8%→8月:同▲6.4%)、ガソリン(7月:前年比▲15.2%→8月:同▲17.8%)、灯油(7月:前年比▲21.4%→8月:同▲23.0%)の全てが前月よりも下落幅が拡大し、エネルギー価格は7月の前年比▲8.7%から同▲10.5%へとマイナス幅が拡大した。

一方、原材料価格上昇の影響などから値上げが続いている食料(生鮮食品を除く)は、パスタソース(前年比 11.8%)、チョコレート(同 18.5%)、インスタントコーヒー(同 13.2%)、牛どん(同 14.0%)が二桁の伸びとなるなど大幅な値上げが行われている品目が目立つ。食料(生鮮食品を除く)の上昇率は7月の前年比 1.6%から同 1.8%へと高まった。



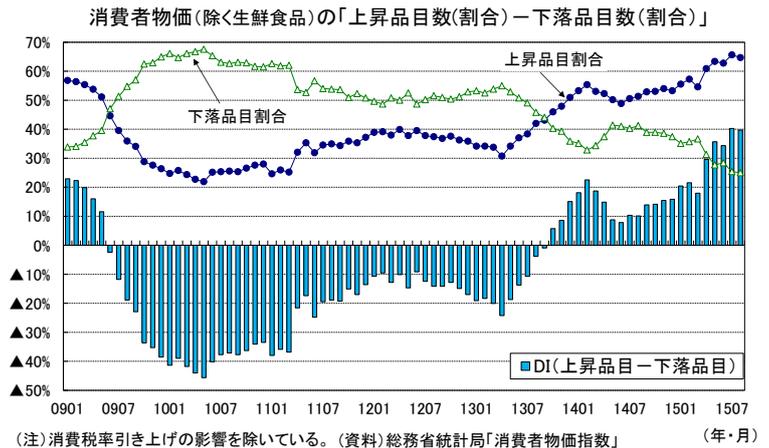
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI 上昇率を寄与度分解すると、エネルギーが▲1.04%（7月：▲0.86%）、食料（生鮮食品を除く）が0.39%（7月：0.36%）、その他が0.56%（7月：0.50%）であった。

2. 物価上昇品目数の割合は引き続き6割を上回る

消費者物価指数の調査対象524品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、8月の上昇品目数は339品目（7月は344品目）、下落品目数は131品目（7月は133品目）となった。上昇品目数は前月から若干減少したが、上昇品目数の割合は64.7%（7月は65.6%）と引き続き60%を上回っている。下落品目数の割合は25.0%（7月は25.4%）となり、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は39.7%（7月は40.3%）であった。

食料品の値上がりが目立っているが、トイレットペーパー、ポリ袋などの日用品、宿泊料、テーマパーク入場料、月謝類などのサービスでも幅広い品目で値上げが行われている。コア CPI 上昇率は前年比でマイナスとなったが、品目数で見れば上昇品目数が下落品目数を大きく上回っており、物価上昇の裾野は広がっている。



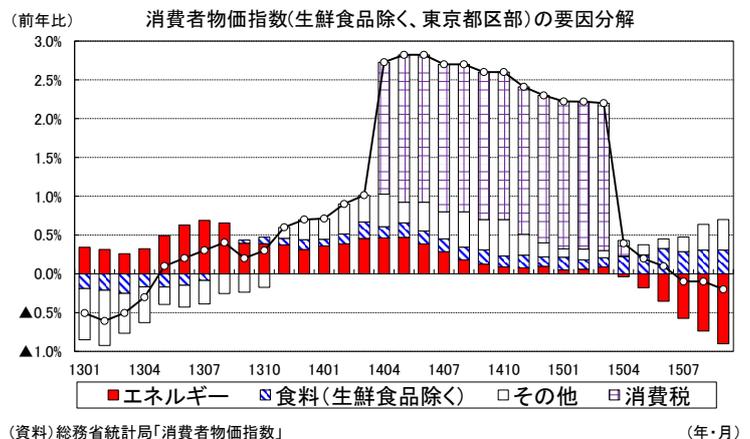
3. 全国のコア CPI は 15 年度末までには再びプラスへ

15年9月の東京都区部のコア CPI は前年比▲0.2%となり、下落率は前月から0.1ポイント拡大した。事前の市場予想（QUICK集計：▲0.2%、当社予想も▲0.2%）通りの結果であった。

電気代（8月：前年比▲8.6%→9月：同▲10.6%）、ガス代（8月：前年比▲10.5%→9月：同▲13.9%）、ガソリン（8月：前年比▲17.8%→9月：同▲20.1%）、灯油（8月：前年比▲17.0%→9月：同▲18.0%）の全てが前月よりも下落幅が拡大したため、エネルギー価格の下落率が8月の前年比▲10.7%から同▲13.1%へと拡大した。

一方、被服及び履物（8月：前年比▲0.3%→9月：同0.6%）が3ヵ月ぶりに上昇したこと、教養娯楽（8月：前年比1.3%→9月：同2.1%）、諸雑費（8月：前年比0.5%→9月：同0.9%）の上昇率が高まったことがコア CPI を押し上げた。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲0.90%（8月：▲0.73%）、食料（生鮮食品を除く）が0.31%（8月：0.31%）、その他が0.39%（8月：0.33%）であった。

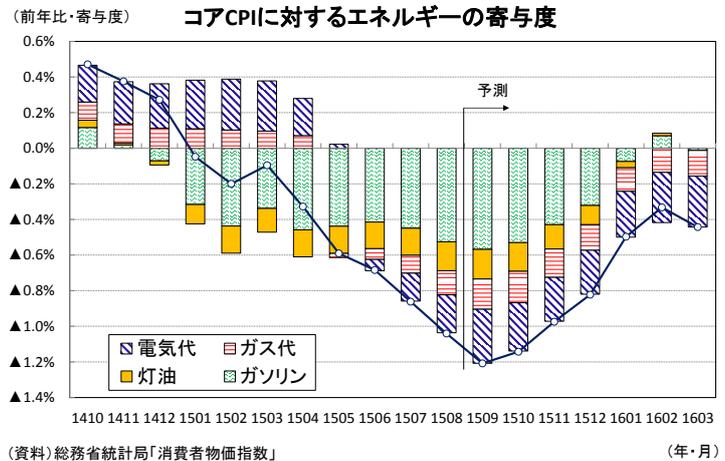


エネルギー価格の下落幅は今後さらに拡大することが見込まれるため、全国のコア CPI 上昇率は

当面マイナス圏で推移する可能性が高い。

一方、かつてに比べて企業の値上げに対する抵抗感は小さくなっており、円安に伴う原材料価格の上昇に対応した価格転嫁はすでに幅広い品目で行われている。コア CPI 上昇率がマイナスに転じる中で、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合（いわゆるコアコア CPI）が2月の前年比 0.3%（消費税の影響を除く）から8月に同 0.8%まで上昇幅が拡大していることは、エネルギー以外の物価上昇圧力の強さを示したものと言える。

現時点では、原油価格（ドバイ）が1バレル=50ドル程度まで戻ることを前提として、コア CPI 上昇率は15年度末までには再びプラスに転じると予想している。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。